



SUPERBIKE EXPRESS 2017 VOL.4 All Japan Road Racing Championship TWIN RING MOTEGI

SUPERBIKE EXtra, EXpert and EXtreme EXPRESS--



QUALIFYING PRACTICE REPORT & INTERVIEW



流れを変えたい中須賀克行がポールポジション! 初優勝を狙う野左根航太、リードを広げたい高橋巧

シリーズ4戦目をツインリンクもてぎで迎えた全日本ロードレース選手権。最高峰のJSB1000クラスは、鈴鹿2&4レース(200km)、SUGO200Mileレースというセミ耐久での2戦を終え、今回から純粋なスプリントレースで行われる。とは言っても1周約4.8kmのツインリンクもてぎのロードコースを23周で争われることになっている。この周回数は、MotoGP™日本グランプリでのMotoGP™クラスの周回数24周より1周短いだけだ。マシンセットやタイヤチョイスをいかに決勝までに合わせ、レースでのペース配分、タイヤマネジメントが勝敗を分けることになる。

今シーズン、全日本ロードレースでは、その大きな要素となるタイヤが、これまでの主流であった16.5インチが使えなくなり、17インチとなった。もちろん各メーカーは早くから開発に力を入れて来ており、その勢力図が、どう変化するかが焦点の一つになっていた。

ここ2戦を見れば相変わらずブリヂストンの優位は揺るぎないと言えるだろう。しかし、5年連続7度のタイトルを獲得している中須賀克行が2戦連続リタイアに終わっている一つの要因になっているのは、新しい17インチタイヤにマシンを合わせ切れていないことがある。今回の中須賀は、前半2戦の流れを断ち切り、一度リセットして臨んでいる。ヤマハ

YZF-R1もモデルチェンジしてから3年目を迎えるが、ここ2年で培った16.5インチでのイメージが大きく、そのフィーリングを追いかけていた部分は大きかったと言えるだろう。

一方、開幕2連勝を飾っている高橋巧は、今シーズンよりニューCBR1000RR SP2を投入。開発段階より17インチタイヤを使っており、その辺の戸惑いはなかったが、決して順調に進んできたわけではなかった。ニューマシンが出来上がったのは、開幕直前。テスト不足が否めない中、Hondaが一極集中で仕上げて来ている。

レースウィークに入って梅雨入りが発表されたが、金曜日から快晴となった。しかし、公式予選が行われた土曜日は、JSB1000クラスのセッション後に雷雨となり、ST600クラス、そしてMFJ CUP JP250クラスのレースは、難しいコンディションの中で行われた。

JSB1000クラスの公式予選は、ノックアウト方式で行われ、Q1で全車が走行。このセッション序盤に何と中須賀が5コーナーで転倒。秋吉耕佑もV字コーナーで転倒するアクシデントが発生する。中須賀は、ピットに戻りスペアマシンで再スタートを切るが、秋吉は、左手を負傷してしまい残念ながらリタイア届けを出している。Q1でトップタイムをマークしたのは、中須賀。ただ一人、1分48秒台をマークし、トップにつける。野左根、高橋巧が続き、トップ3が

Q3に進出を決めた。Q2では、ピレリタイヤを履くモリワキの清成龍一、高橋裕紀が健闘。濱原颯道、山口辰也、藤田拓哉、渡辺一馬がノックアウトされ、清成と高橋裕紀がQ3に進出する。

Q3には、高橋巧が真っ先にコースイン。これの中須賀がビタリとマークし、前に出るとヘアピンで進入ハイスайдとなり、あわや計測前に転倒という場面があったが、何とか持ちこたえ、そのまま計測ラップに入っていく。中須賀は、圧巻の走り1分48秒台中盤で走り続ける。高橋裕紀、津田、清成とノックアウトされ、残り3台となったところで、高橋巧の背後につけていた野左根が5コーナーで前に出て行く。この駆け引きに野左根が勝ち、最後は、YAMAHA FACTORY RACING TEAM同士の対決となる。野左根は、セクター1、セクター2で中須賀を上回るが、S字コーナーでミスをしてしまいタイムロス。中須賀が今シーズン2回目のポールポジションを獲得した。

レースは、フロントロウの3人を中心に展開されそう。津田、清成、高橋裕紀、渡辺、藤田、山口、濱原などが、トップ3に、どこまでついて行けるかがレース展開のカギを握るかもしれない。

絶対王者・中須賀の復活するか!? 高橋巧が連勝記録を伸ばすか!? それとも野左根が初優勝を達成するか!? 23周後のチェッカーフラッグを真っ先に受けるのは?



JSB 1000
ALL JAPAN ROAD RACE CHAMPIONSHIP

ポールポジション:1分48秒668

#1 中須賀 克行

YAMAHA FACTORY RACING TEAM

『ポールポジションを獲れたことは、よかったですが、大事なのはレースでの結果です。まだ今シーズンは、レースをゴールしていないので、今回こそ走り切りたいです。Q1では、路面温度がレースウィークで一番高くなったこともあり、フィーリングが違ったのですが、プッシュして行ったのですが、自分のミスで転倒してしまいました。金曜日も転倒していましたが、流れが悪いので、予選でリズムを取り戻そうと必死でした。Q3でタイム計測入る前に進入ハイスайдで内側に入ってしまった、終わったかと思いましたが、何とか転倒しなかったで、集中して攻めて行きました。チームメイトの野左根選手も調子を上げてきていますし、高橋巧選手も強いので接戦になると思います。今シーズンは、まだレースを走り切っていないので、23周、自分の力を出し切りたいですね』



写真:(上)野左根航太 (中)高橋巧 (下)清成龍一

IP 250 Presented by DUNLOP

薄井徹也(NAT)、笠井悠太(INT)が優勝!

MFJカップJP250選手権 第3戦の決勝レースは、予選3番手の中沢寿寛、同2番手の薄井徹也、ポールポジションの上原大輝と続き、レースをリードする。3周目に中沢が転倒した後は、薄井がトップに立ち、最後まで攻める上原を振り切って優勝した。



トップ争い

決勝正式結果(10周/上位15位)

●6月10日(土)天候/予選 晴 決勝 雨 ウェット 出走31台

Pos No	Cls.	Rider	Team	RaceTime
1	69 N 1	薄井 徹也	ENDURANCE	24'00.246
2	73 N 2	上原 大輝	CLUB HARC-PRO.	24'01.048
3	20 I 1	笠井 悠太	TEAM TEC.2	24'18.030
4	26 N 3	田中 敬秀	7Cエムスホー&MissionMovers+CAC=NTR	24'18.553
5	97 I 2	佐野 優人	TEAM・BATTLE	24'18.988
6	90 I 3	藤井 謙汰	テルル・MotoUPレーシング	24'19.067
7	10 I 4	森 俊也	TRICK STAR Club	24'19.109
8	46 I 5	小谷 咲斗	TEAM ALTEC NECTO T-Craft	24'19.199
9	35 N 4	小椋 華恋	キジマKISSレーシングチーム	24'19.640
10	13 I 6	藤村 太機	TRICK STAR Club	24'19.909
11	92 N 5	成田 彬人	Team HIRO	24'32.545
12	40 N 6	西村 硝	TEAM TEC.2	24'35.157
13	11 N 7	豊島 智博	ライダーズサロン横浜	24'35.513
14	27 N 8	石井 千優	Team千葉北☆N-PLAN	24'39.001
15	4 I 7	吉澤 隆	CLUB KENJIN&Pentagram&PLUS	24'41.883

I-GP2
ALL JAPAN ROAD RACE CHAMPIONSHIP
QUALIFYING PRACTICE
REPORT & INTERVIEW

榎戸育寛が今季2回目のポールポジション!
「とにかくドライのレースで勝ちたいですね」



40分間のセッション、前半は柴田陸樹が2分53秒939でトップをキープ、2番手には54秒193の水野涼。生形秀之、石塚健、三原壮紫、関口太郎、榎戸育寛が続く。中盤に入ると生形秀之が0.001上回る53秒192で2番手に食い込むと、さらに53秒427をマークしてトップに浮上した。榎戸も53秒527をマークして2番手に上がってくる。

残り10分頃になり、最後のアタックに入る各ライダーたち。まず生形が53秒067をマークしてトップを

キープ。関口も53秒388で2番手を奪うなど、上位陣も激しいアタックを繰り返す。残り5分、榎戸が53秒1でポジションを上げると、そのままの勢いで次の周回もアタック、各セクタータイムで最速をマークし続けて52秒833をマーク、このタイムでポールポジションを決めた。2番手に生形、3番手には最後にタイムアップした石塚が53秒342、セカンドロウ4番手に関口、こちらも最後にタイムアップした岩崎哲朗が5番手、水野も53秒916まで上げて6番手となった。



ポールポジション:1分52秒833

#32 榎戸 育寛

MOTO BUM HONDA

『最後の最後にタイムが出たんですが、本当はもっと早い段階で出したかったのですが、金曜日より路面温度が上がったみたいで、その調整に相当時間をとられてしまったんです。決勝想定は出ていたので自信はありましたが、一発のタイムはまだ出せる自信がなかったんですね。タイムだけ見れば今日は50点くらいですが、もてぎに入ってから決勝で勝つことだけを考えていて、それは金曜日の段階ですべてまとまっています。だからレースでは自信がありますが、周りも速いので自分の走りをしっかりしたいと思います』

ST 600
ALL JAPAN ROAD RACE CHAMPIONSHIP
QUALIFYING PRACTICE
REPORT & INTERVIEW



前田恵助が今季初ポールポジション! 「自分の走りをすれば、勝てると確信しています」



ST600クラスの公式予選を前に、雨雲が突如発生し、40分間のセッション開始早々に土砂降りのため赤旗で走行が一旦中断された。すぐ止んだためにほとんどセッションは20分間の予定で再開された。ただ、空にはどんよりとした雲が広がっていることから、各ライダー共にすぐさまアタックモードに。長尾健吾、岡本裕生、國峰琢磨、奥田教介、亀井雄大らがタイムと順位を入れ替えていく。

中断前に転倒していた前田恵助だったが、幸いに

してダメージは少なく、またコースコンディションを見て再開後はドライでいけると確信して、アタックに臨んだ。その前田が1分57秒319をマークして3番手になると、さらに56秒557へとタイムアップして長尾からトップを奪う。奥田、岡本らもタイムアップしてくるが、再開後10分ほど経過した時点で再び雨。各ライダーはアタックを中断し、様子を見るが、結局そのままセッションは終了。

前田がポールポジションを獲得することになった。



ポールポジション:1分56秒557
#5 前田恵助
伊藤RACING・GMDスズカ

『中断前にコケてしまい、監督には平謝りでした。幸い損傷も少なくこれは走れる、と思いましたし、コンディションも路面を見たらすごい勢いで乾いていたので、これはドライでイケる!と思いました。雨が降る前はポールポジションとレコードタイム更新するぞ!くらいの気持ちでしたが、雨が降った(中断)後はそれほど無理せず2列目でもいいや、くらいのつもりで走りました。ベストタイムが出た後にポツポツとまた雨が降ってきたので。これはヤバイ! (笑)と…。決勝は自分の走りをしっかりすれば、勝ちについてはと思っています』

J-GP3
ALL JAPAN ROAD RACE CHAMPIONSHIP
QUALIFYING PRACTICE
REPORT & INTERVIEW

古市右京、KTMを初のポールポジションに導く!! 「チームのまとまりに対して結果で報いたい」



朝から快晴のツインリンクもてぎで、予選日最初の公式予選となるJ-GP3クラスのセッションが始まった。序盤は安村武志、岡崎静夏、小室旭らが2分02秒台でトップを入れ替える。その中で古市右京が01秒991と唯一02秒台を切ってトップに立つ。その後中盤に入るとアタックは小康状態となり、その間にビットでセッティングを変更するなどした各ライダーが、40分間のセッションの残り10分あたりから最終アタックの態勢に入る。

しかし、各ライダーは自己ベストを更新するものの、トップタイムを上回る者は現れず、このまま古市がポールポジションを獲得した。2番手は最後にタイムアップした安村で02秒226、3番手にポイントライダーの小室で02秒309、岡崎が02秒589、小室とポイントの伊達悠太も最後に02秒760までタイムアップして5番手、セカンドロウ最後の6番手には、序盤で02秒790をマークしながら、終盤に転倒を喫した山中琉聖が留まった。



ポールポジション:2分01秒991
#7 古市 右京
KTM RACING

『全日本で17年目になりますが、初のポールポジションです。ただ、決勝が重要なので、今日の結果は気持ちの上でもそれほど影響はありません。どちらかと言えば、金曜日から20周という長い決勝を想定したアベレージを重視していますので、そこをしっかりと詰めてきたつもりです。KTMについては、スタッフや皆さんのお陰で車体もエンジンも今シーズンに入って特にいい感じになってきました。明日の決勝では逃げられたら逃げたいですし、そうでなければ様子を見ながら作戦を考えます。すべてはスタートしてから決めようと思っています』

MFJ Superbike Round 4 TWIN RING MOTEGI SUPERBIKE RACE 10 - 11 June 2017 公式予選結果



●予選:天候/晴 路面/ドライ 出走34台
●決勝スタート/14:25 (23周)

Pos	No.	Name	Team	Machine	BestTime
1	1	中須賀 克行	YAMAHA FACTORY RACING TEAM	YZF-R1	
2	5	野左根 航汰	YAMAHA FACTORY RACING TEAM #5	YZF-R1	
3	634	高橋 巧	MuSASHi RT HARC-PRO. Honda	CBR1000RR SP2	
4	88	清成 龍一	MORIWAKI MOTUL RACING	CBR1000RR	
5	12	津田 拓也	ヨシムラスズキMOTUL	GSX-R1000R	
6	72	高橋 裕紀	MORIWAKI MOTUL RACING	CBR1000RR	
以上Q3にて決定:					
7	23	渡辺 一馬	Kawasaki Team GREEN	ZX-10RR	
8	9	藤田 拓哉	YAMALUBE RACING TEAM	YZF-R1	
9	104	山口 辰也	TOHO Racing	CBR1000RR SP2	
10	50	濱原 颯道	ヨシムラスズキMOTUL	GSX-R1000R	
以上Q2にて決定:					
11	090	秋吉 耕佑	au & テルル・Kohara RT	CBR1000RR	1'50.914
12	46	松崎 克哉	Kawasaki Team GREEN	ZX-10RR	1'51.651
13	94	浦本 修充	Team KAGAYAMA	GSX-R1000	1'51.763
14	39	酒井 大作	Team Motorrad39	S1000RR	1'51.977
15	18	近藤 湧也	JOYNETレーシングGBS YAMAHA	YZF-R1	1'52.189
16	25	日浦 大治朗	Honda鈴鹿レーシングチーム	CBR1000RR	1'52.384
17	080	瀧美 心	UQ & テルル・Kohara RT	CBR1000RR	1'52.440
18	71	加賀山 就臣	Team KAGAYAMA	GSX-R1000	1'52.454
19	79	伊藤 真一	Team SuP Dream Honda	CBR1000RR	1'52.548
20	60	津田 一磨	Titanium Power HOOTERS Racing	YZF-R1	1'52.631
21	47	上和田 拓海	Webike チームノリツヤマハ	YZF-R1	1'52.798
22	85	中富 伸一	HITMAN RC甲子園ヤマハ	YZF-R1	1'53.041
23	34	岡村 光矩	KRP三陽工業&RS-ITOH	ZX-10RR	1'53.105
24	16	児玉 勇太	TONE RT SYNCEDGE 4413	S1000RR	1'53.971
25	13	中津原 尚宏	オートテクニクススポーツPGR	CBR1000RR	1'54.755
26	89	吉広 光	CLUBNEXT&MOTOBUM	CBR1000RR	1'56.060
27	44	奈須 勉	奈須飯金・WILD☆HEART・秋山工業	CBR1000RR	1'56.083
28	52	野寄 真二	Honda浜友会浜松エスカルゴ	CBR1000RR	1'56.174
29	51	森 健祐	Honda ブルーヘルメットMSC 熊本	CBR1000RR	1'56.295
30	43	須貝 義行	チームスガイレシングジャパン	RSV4 RF	1'56.371
31	62	塩原 弘志	S.SUPPLY&おやじ組	GSX-R1000L2	1'56.989
32	49	原田 洋孝	RS-ガレージハラダ姫路	ZX-10R	1'57.163
33	61	福井 誠	ブルドッカータコス	YZF-R1	1'57.387
以上予選通過車両:					
34	77	佐藤 直之	オムステンレス&StarworkS+STR	S1000RR	1'58.138
41	樋口 耕太	H.L.O RACING	GSX-R1000		出走せず

参加台数 35 台 出走台数 34 台

予選通過基準タイム (108 %) 1'57.829

※トップ6サバイバルQ2およびQ3で決定した順位は、タイム順ではありません。



●予選:天候/雨 路面/ウェット 出走31台
●決勝スタート/15:50 (18周)

Pos.	No.	Name	Team	Machine	BestTime
1	5	前田 恵助	伊藤レーシングGMDスズカ	YZF-R6	1'56.557
2	84	長尾 健吾	TEAM けんけん with BEE	YZF-R6	1'56.609
3	57	奥田 教介	Team MF & KAWASAKI	ZX-6R	1'56.709
4	52	岡本 裕生	51ガレージ チームイワキ	YZF-R6	1'56.907
5	50	國峰 琢磨	T.Pro Innovation	CBR600RR	1'57.645
6	17	亀井 雄大	Honda鈴鹿レーシングチーム	CBR600RR	1'58.065
7	41	仲村 優佑	AKENO SPEED-YAMAHA	YZF-R6	1'58.070
8	46	星野 知也	Team Plusone	CBR600RR	1'58.074
9	13	山元 聖	51ガレージ チームイワキ	YZF-R6	1'58.350
10	3	名越 哲平	Mistresa RT HARC-PRO.	CBR600RR	1'58.433
11	18	田所 隼	Team Plusone	CBR600RR	1'58.714
12	15	和田 留佳	RS-ITOH&サンタバイク	ZX-6R	1'58.757
13	40	南本 宗一郎	AKENO SPEED-YAMAHA	YZF-R6	1'59.261
14	27	大野 英樹	B~DASH106 Snail Racing	ZX-6R	1'59.413
15	31	長嶋 修一	大道建設モトアルファ	YZF-R6	1'59.463
16	20	名越 公助	GBS YAMAHA マツエセブン忠男	YZF-R6	1'59.466
17	38	杉山 優輝	MOTO BUM HONDA	CBR600RR	1'59.527
18	70	清末 尚樹	RS-ITOH	ZX-6R	2'00.117
19	39	古山 颯太	伊藤レーシングGMDスズカ	YZF-R6	2'00.196
20	91	小山 葵	AKENO SPEED	YZF-R6	2'00.301
21	705	黒川 武彦	保険職人SPEED party	ZX-6R	2'01.041
22	24	田尻 克行	グリーンクラブ能塚	ZX-6R	2'01.266
23	48	行村 和樹	TOHO Racing Club	CBR600RR	2'01.731
24	25	松川 泰宏	MOTO BUM+SAI	CBR600RR	2'02.234
25	43	森中 忍	B-dash106+Little Wing	CBR600RR	2'02.424
26	26	櫻井 賢一	MOTO BUM	CBR600RR	2'02.445
27	85	中山 友廣	MRCカラー	CBR600RR	2'02.940
28	86	佐藤 道夫	EGUKEN-Garage	YZF-R6	2'03.501
以上予選通過車両:					
29	59	若松 宏	TeamYSP三鷹	YZF-R6	2'10.466
30	64	矢田 栄一朗	GBSレーシングYAMAHA	YZF-R6	2'19.325
90	中村 龍之介	au & テルル・Kohara RT	CBR600RR		計測できず
47	宮崎 寿郎	T-PRO inc.&ファイヤーワークス北関東	ZX-6R		出走せず

参加台数 32 台 出走台数 31 台

予選通過基準タイム (110 %) 2'08.212



●予選:天候/晴 路面/ドライ 出走25台
●決勝スタート/10:45 (20周)

Pos.	No.	Cls.	Name	Team	Machine	BestTime
1	7		古市 右京	KTM RACING	RC250R	2'01.991
2	3		安村 武志	犬の乳酸菌.jp/プリミティブR.T	PRCS3C	2'02.226
3	17		小室 旭	Team P.MU 7C	NSF250R	2'02.309
4	6		岡崎 静夏	UQ & テルル・Kohara RT	TSR3	2'02.589
5	64	Y	伊達 悠太	BATTLE FACTORY	NSF250R	2'02.760
6	90		山中 琉聖	テルル・MotoUP	NSF250R	2'02.790
7	41		宇井 陽一	41Planning	TR-004	2'02.964
8	34	Y	中島 元氣	TEAM SRS-MOTO	NSF250R	2'03.308
9	2		栗原 佳祐	MORIWAKI CLUB	NSF250R	2'03.362
10	36	Y	福岡 佑斗	TEAM Plusone	NSF250R	2'03.397
11	11		太田 虎之進	WJ-FACTORY	NSF250R	2'03.418
12	33		佐野 勝人	犬の乳酸菌.jp/プリミティブR.T	PRCS3b	2'03.716
13	16		野澤 秀典	ノザワレーシングファミリー	NSF250R	2'03.854
14	10		山本 恭祐	チームライブ・ドリーム北九州	NSF250R	2'04.014
15	14		高杉 奈緒子	41Planning	NSF250R	2'04.063
16	12		船田 俊希	TEAM Plusone	NSF250R	2'04.077
17	13	Y	長谷川 聖	CLUB Y's	NSF250R	2'04.467
18	18		大澤 恒貴	team hiro'ck	NSF250R	2'04.477
19	22		白石 玲菜	Dreamline Team REINA	NSF250R	2'04.797
20	39		B Peerapong	41Planning	NSF250R	2'04.947
21	44		小沢 良美	ObrigadaRTwithYMK&チャウ	NSF250R	2'05.259
22	20		三好 菜摘	オーテック・スズカ+RGニフ	NSF250R	2'05.346
23	21		畑中 要	FTR・タイヤナビ・横道藤住宅	NSF250R	2'05.508
24	31		荘 安育	SHARK FACTORY aRacer BATTLE	NSF250R	2'06.609
25	23		川瀬 啓一郎	Club NEXT & KOHSAKA	TSR3	2'06.946

以上予選通過車両:

※Y=ユースカップ登録ライダー

参加台数 25 台 出走台数 25 台

予選通過基準タイム (110 %) 2'14.190



●予選:天候/晴 路面/ドライ 出走20台
●決勝スタート/12:05 (22周)

Pos.	No.	Name	Team	Machine	BestTime
1	32	榎戸 育寛	MOTO BUM HONDA	KALEX	1'52.833
2	4	生形 秀之	エスバルスドリームレーシング	GSX-R MFD6	1'53.067
3	5	石塚 健	WILL-RAISEracingRS-ITOH	ZX-6R	1'53.342
4	44	関口 太郎	SOX Team TARO PLUSONE	HP6	1'53.388
5	70	岩崎 哲朗	OGURAclutch with パワービルダー	ZX-6R	1'53.418
6	634	水野 涼	MuSASHi RT HARC-PRO.	HP6	1'53.916
7	39	柴田 陸樹	RS-ITOH&AUTOBOY	ZX-6R	1'53.927
8	93	稲垣 誠	AKENO SPEED-YAMAHA	YZF-AS6	1'54.459
9	13	三原 杜紫	Team KAGAYAMA	GSX-prot071	1'54.473
10	31	岩戸 亮介	Team 高武 RSC	MD600	1'54.696
11	17	井筒 仁康	WILL-RAISEracingRS-ITOH	ZX-6R	1'54.830
12	090	中村 修一郎	au & テルル・Kohara RT	KALEX	1'55.673
13	16	中本 都	TONE RT SYNCEDGE 4413 BIZEN	HP6	1'55.878
14	10	大木 崇行	T.Pro HARC	HP6	1'56.050
15	33	ケミン・クボ	Thailand ヤマハチームノリツ	YN6	1'56.131
16	392	村瀬 健琉	ミクニ テリー&カリ	GSXR600	1'56.524
17	36	徳留 真紀	マルマエPLUSONE	SPEED UP	1'57.789
18	21	赤間 清	Mistresa RT HARC-PRO.	HP6	1'59.318
19	34	小口 理	ALLMAN&OWracing	YZF-OWR6	1'59.647
20	27	山内 宏之	立秋モータース&RC甲子園	YZF-R6	2'01.875

以上予選通過車両:

参加台数 20 台 出走台数 20 台

予選通過基準タイム (110 %) 2'04.116

INFORMATION



全てのモータースポーツファンに
向けてレースをお届けします!

全日本ロードレース全戦が無料BS放送のBS12(番組名「RIDE&DRIVE」)で放送されます! 放送時間はレース6日後の土曜日、27:00~27:54

★詳しい放映スケジュール等はファンサイトで!

■全日本ロードレース選手権第4戦ツインリンクもてぎ
スーパーバイクレース/放映スケジュール

6月17日(土) 27:00~27:54



インターネットライブ中継&動画配信も充実!!



サーキットの場内監視(ポスト)映像に外部カメラ映像をプラスし、「MFJライブチャンネル」にて配信。
中継配信がより充実しました。※通信環境により配信されない場合もあります



YouTube「MFJ SUPERBIKEオフィシャルチャンネル」では、予選・決勝直後のライダーインタビューを中心に、全日本ロードレースの迫力を動画にて配信!

詳しくはファンサイトで → <http://superbike.jp/>

